

こんなことあったよ！レポート

平成20年11月15(土)16(日)

福島県会津若松市に行ってきました！編

●七日町通りまちなみ協議会

会津若松では、江戸時代の建物は戊辰戦争でほとんど焼けましたが、明治以降の歴史的建造物は数多く残っているとのことでした。

通りでは廃業したガソリンスタンドをステージ付きの広場に整備していました。能代でも畠町などの空き地を利用して、このようなイベント空間を整備すればイベントが企画しやすいのではないかと思います。ただし、七日町では県と市で整備したとのこと、能代でも県と市が動き、整備しないと実現は難しいと思います。

また、250万円/mの費用でレンガ通りを整備していました。自動車も通るため、補修等の維持管理が大変らしいです。車両通行止めでも良いのではないかと感じました。ただし、クラシックな巡回バスがレンガ通りを通る様は見ていると気持ちが良かったです。

七日町の駅は「駅カフェ」としてカフェと特産品の販売所になっていました。駅の改修にJRが800万円を出したとのこと。観光客よりも地元の人が多く利用し、お茶を飲んでいるとのこと。また、鉄筋の空き倉庫を改修し、地酒が飲めるバー付きのアンテナショップ「会津ブランド館」にしていました。ここでは県が1千万円出しています。内装はきれいに塗装し、木材も使っていて、中に入ると鉄筋の倉庫とは思えないオシャレな空間になっていました。駅カフェではお手頃な商品を扱っていますが、ブランド館では少々高価な商品を販売しており差別化しています。

七日町でも商店街のマップをつくっていました。各商店にFAX等で一斉発信し、回答が無いところへは電話で確認しているそうです。マップに載せないと損だと思わせるのがコツです。

●アネッサクラブ

アネッサクラブは会津若松駅から南へ1.3Km続く大町通りの商店の女性を中心に構成されています（ちなみに男性はMr. Anessa）。七日町通りの隣にある商店街です。会員85店。入会金3,000円、年会費1,000円。代表者が2年で交代します。これは長くやると代表任せになったりするためです。大町通りのある程度の区画に世話役を置いており、この世話役が元気な区画は活発になるとのことでした。

のきさきギャラリーでは、店のディスプレイに蔵にしまっているものを飾ってミニ美術館のようにしていました。たまに貸し出しギャラリーにもしているとのこと。このギャラリーを続けるうちに自分を表現するのが楽しくなってきたとのこと。また、アネッサクラブのロゴを店頭に掲示し、アピールしています。また、通りに緑が無いことから、それぞれが店先に花などのプランターを置いています。

4つのどうぞ運動では、①いすをどうぞ②お茶をどうぞ③トイレをどうぞ④荷物をどうぞを行っています。お客さんをもてなし、ゆっくりと買い物してもらおうような体制になっていると感じました。



電線が地中化されたレンガ通りを走るまちなか周遊バス「ハイカラさん」。補助ステップや車椅子用のリフトも整備されています。また商店街振興会と交通事業者が運行している廃食油由来のBDFで走る「エコろん号」が観光地や病院・駅・商店街など公共性の高いところを循環しています。



まちづくり活動に合わせてレトロな外観で作られた駅カフェ。JR七日町駅舎内に開設している会津17市町村のアンテナショップです。

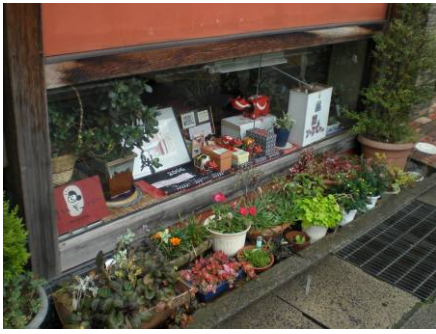


地酒や名水水出し珈琲があるカウンターで早速休憩。



古いタンスやテーブルも使ってディスプレイされ、思わず手に取りたくなる品物が並んでいます。





アネッサの方々の個性と工夫が感じられ、歩くだけでも楽しいのきさきギャラリー。商店街の女性ならではの発想が感じられますね。



温かいお茶にほっとするひととき。



片側1車線のコンパクトな商店街。



天然フグや桃など地場の産品が工夫されて、あちこちでPRされています。

お邪魔したりサイクルショップでは、そば茶が出てきて体が温まりました。ここでは、語り部が昔話を披露する座敷があり、毎月10日の十日市に開催し、参加者も多く売り上げにも貢献している模様です。

会津流しかんしょ踊りというイベントには、県振興局から50人の参加があったとのこと。活動のフォローアップとしては、何かをやると必ず課題が出てくるため、これを解決するためにアネッサ大学で勉強しているとのこと。

アネッサクラブには、「あのせい、このせい、誰のせい」はありません。また、決してあきらめないこと、そして実践することがモットーで、初めから無理だといって何もしないのはダメで、行動することが大事です。他でもそうですが、最初は行政は見向きもしなかったが、5年くらいすると行政の方から声をかけてくれるようになったようです。

●まとめ

七日町通り、大町通りともに大きい道路ではありませんでした。2車線の畠町、上町の通りとは違い、反対側のお店にも楽に行け、コンパクトな感じがしました。シャッターを下ろしている店も少なく、建物に統一感があり、信金やコンビニにも周りの景観に合わせています。蔵づくりの店や洋館などが立ち並び、歩いているだけでも気持ちが良かったです。建物を統一するのは困難ですが、能代でも看板くらいならなんとかなるのではないかと思います。商店街の中と商店街同士の連携が重要と感じました。

今回お邪魔した各店では、意外と木材が多く使われていました。鉄筋の倉庫を改修した会津ブランド館でも内装に使われ、野口英世青春館の梁には曲がり木が使われています。木都能代でこそ木を基調とした景観づくりが必要だと改めて感じました。

どちらの商店街も、ただ単に買い物だけではなく、人が集まるような、遊びに行くというような取り組みができていていると感じました。そして何より、活動している方々が楽しんでやっているから他の人も集まってきていると思いました。

文：穴山 和照

ドライブインのレストランでは、全国大会新メニューコンテストのメニューになっている「ふぐ」がレジに置かれていたり、子供用のエプロン貸し出しを行っていました。物産では、福島のももや、あわ餅が販売されておりました。それ以外にも地場の果物やキノコなど販売されており、活気があるだけではなく、地場の食をいかに効果的にPRするかという勉強になりました。

会津若松は街全体が大正ロマン風で、バスやタクシーはイギリスぽく、街にとけあっておりました。また、要所要所に観光パンフレット（木棚）がおかれており、訪れる人にとってありがたいものだと感じるとともに、街あげて観光PRを進めている気持ちが伝わってきました。

無人駅は、周りをレンガで囲い街にとけ込む良い雰囲気を出しており、駅構内は観光物産館のようになっておりました。喫茶店

も併せておこなっており、地元の人と観光客とが楽しめる良い駅づくりの1つのように思います。能代駅もぜひマネできればよいのではと思いました。

アネッサ倶楽部の取り組みについては、軒先に「いすをどうぞ」「お茶をどうぞ」「トイレ貸します」など、共通カードが置いてある他、のきさきギャラリーなるものを行い、子供さんやプロの絵を飾ったりなど、毎月行事を決めて実施しているとのこと。地域の人が見て楽しめるだけではなく、訪れる者にとっては、楽しく又ゆっくり楽しめる気配りがされており、「おもてなしの心」が伝わってきました。

多少古い建物が点在し、城下町として街並みを見ることが出来る特別な所のように思えますが、店自体は能代と比べてもそう変わりはないように思います。見える部分（外観等）をいかに街全体で統一し、もてなす気持ちをもてるかが鍵なのではないかと思えます。

宿泊先のホテルにおいても、観光パンフの整備はもちろん、ロビーに會津の歴史関係の本が販売されていたり、体験メニューの提供、地場の米やお酒の注文販売（各部屋置きチラシ）など取り扱っており、宿泊だけではなく、地域全体の観光PRを担いながら、地域が活性化するため様々な情報・物産提供を実施しております。こうした姿勢が、観光客に「また来たいなあ」と思わせ、リピーターを増やし、地域全体が活性化する一つになっているように思えます。

會津若松に行って感じたことは、「おもてなしする心」＝「良い地域づくり」＝「地域の活性化」これらが全てそろった時、良い観光地として発展するのではないかと思いました。

ただし、「なにごと外見から」ではありませんが、街並みづくりの統一というのは、街の雰囲気づくりのため重要な整備だと思いました。能代も街全体の見えるところに「秋田杉」を使用すれば、本当の意味で「木都」として観光PR場所になるのでは、....。

文：中田 彩子

百聞は一見に如かず、「能代は井の中にどっぷり！」を改めて感じた視察でした。会津若松市は古い家並み・街並み・近代的な美しい街並みあり、お城・お寺・国宝級の建物が混ざり合った田舎の街でした。人通りがなくなり、街が弱りきった15年前の同市に思いを馳せながら大急ぎの研修でした。

アネッサ会員のマークが表示されているお店を訪問するごとに、その店、その店のアイデアが豊かで感心させられるばかりでした。お金をかけないであるものを最大限に利用して、自分の店に来てくれたお客さんをどうやって喜ばせるか、楽しませるのか、また来たいと思わせられるのか、頭をひねっている想いが熱く感じられました。—この感じは行ってみないとわからない—（このような活動をする中で、アネッサクラブの人達は、活動の広まりと共にクラブ内での意見の食い違いをどのように乗り越



統一された木箱の情報コーナー



お店によって「どうぞ」が違うのも無理なくできる秘訣でしょう。



古い建物がまちの雰囲気を作っています。



ホテルの部屋にも色々なPRがありました。



能代に来て下さったことのある元代表の小野寺さんの漆器店。軒先ギャラリーに足が止まります。



アネッサ倶楽部の設立の経緯や活動についてお話を伺いました。自分達の活動をこのように上手に説明できるようになりたいものですね。



たくさんの緑と花で飾られた店先。



まちなか散策マップと連動したまちなかの案内標識。下の数字は基点から約70mであり、奇数なので終点に向かって左側にあることがわかります。



どこに行っても楽しい買い物がありました。



みんなで記念写真！

えてきたのかを思い、今後の研修の課題にしたいと思います。）

能代（すみれ会）にこの熱い思いがあるだろうか、自分の足元をしっかりと見極めているだろうか、活動が楽しいだろうか、他の人(団体)達もやってみたいと思うような活動をしようとしているのだろうか、あれこれ考えさせられましたが、一方で、すみれ会の活動の良さを改めて感じた点もありました。街を花で飾ること、まち灯りイベント、ほっとステーションの活用(ときめき隊の野菜産直交流、染色・フラワーアレンジメント・絵手紙の会など、空き店舗のシャッターを空け、花を飾り、案内板やベンチの設置等々少しずつ形になっていく流れがあったからです。

とにかく「限界」の街を呈しつつある能代をどのようにして少しずつでも生き返らせる活動ができるのか、市民全員で頭をひねらなければならないと思いました。「よそを見て、自分の足元を見る」とても貴重な時間でした。帰りのバスで、皆それぞれの思いを語り合い、来年は大型バスで(視察に)行くべきだ!と氣勢をあげました。

文：相澤 レイ子

この度、会津若松の研修視察に参加できましたことを心から感謝しております。アネッサクラブの方々の「まちおこし」にかける熱い思いを身近に感じる事ができましたことは、これからの私たちの「まちおこし」のあり方にも一つの道を示して下さったと思います。気付いたことを箇条書きにいたします。

◎まち全体がおもてなしの心でいっぱいである。どの方々にお逢いしても笑顔と優しさをいただいた。「心を添える」ことの大切さを実感した。

◎街全体の建物の造りが見事に統一されていた。病院・一般住宅・銀行までが蔵造りの様子を呈していた。会津若松の方々が歴史を大切にしていることが伝わってきた。大切にすることというのは、誇りを持って伝えていくことに通じると思う。

◎街並みを歩いていて、歩行者天国であるかのような雰囲気を感じた。商店会を歩いていて本当に楽しかった。七日町通りのキャッチフレーズ「歩けば幸せに会う」が伝わってきたし、そう思える。

◎3千円以上の買い物をしたらエコバッグのような袋がサービスとしてついてきた。袋があればまた買い物をしたくなる。温かい心遣いであると思う。

七日町通り商店街の山口代表が「社会的責任を持つということとは、人との繋がりを持つということだと活動をしていて分かった」とおっしゃいました。本当にその通りだと思いました。売る側、買う側ということではなく、まちを支えあう人間同志としてお互いを育てていくことができる「励まし合うまち」づくりが大切なのだと思います。

文：安岡 里江